

記者会見要旨  
(2018年9月14日)

挨拶

1. 始めに、本年は1948年に公認会計士法が制定されてから、70周年を迎える年となりました。70年という永きにわたり、公認会計士制度を維持発展できたのも、公認会計士の先達はもちろん、市場関係者をはじめとする皆様に支えられてきたからこそであると思っております。この場を借りて御礼申し上げます。誠にありがとうございます。
2. さて、この研究大会は、資料1にありますように、社会との交流を深め、公認会計士の社会的発言の方途にしようとの趣旨の下、1979年に第1回大会を開催し回を重ねて、今回、徳島で39回目の開催を迎えることができました。四国地方での開催は、2003年に高松で行われた第24回研究大会に続いて、15年ぶり2回目の開催となり、ここ徳島では初めての開催となります。
3. 今回の研究大会のテーマは、「伝統の上に築くイノベーション～人口減少社会を乗り越える新機軸」となっています。公認会計士制度が70周年を迎え、節目の年として、先月まで、全国各地域会での記念講演を行う等、人口減少社会を踏まえた地域での活動にも力をいれている中、公認会計士がその持てる専門知識を活かし、地方創生、ダイバーシティの推進、AI技術の活用などにより、公認会計士がどのように社会貢献ができるのかを考えていきたいと思っております。

第39回日本公認会計士協会研究大会 徳島大会 2018 について

4. 今回の研究大会は、午前中に行う記念講演に認定NPO法人グリーンバレー理事の大南信也氏を講師としてお迎えし、発展し続けている神山町のグリーンバレー構想についてお話をさせていただくことになっております。その講演の後のパネルディスカッションでは、そこに公認会計士としての職域を見つけ出すことができるのか、ということのパネリストの皆様とディスカッションしていこうと思っております。
5. 午後に行う研究発表においては、前四国会会長の長地孝夫氏による研究発表「監査委員監査における「期待ギャップ」の考察」や、阿波銀行の三好敏之常務取締役をお招きしたパネルディスカッション「地場産業・イノベーション企業の成長促進剤としての公認会計士の役割～今こそ、地方からのIPOで、地域と日本の活性化を～」をはじめとして全部で10テーマの発表を行います。
6. また、記念パーティーにおいては、徳島県のみならず、四国4県の食文化を堪能していただくとともに、記念講演でも取り上げられた神山町の地ビールを提供することになっております。
7. そして最後は阿波踊りを全員で踊り、盛大なフィナーレにしたいと思っております。

協会の最近の動き

8. お手元に配付したアニュアルレポート2018をご覧ください。こちらは今年初めて作成

したものになります。協会では、会員のみならず、外部のステークホルダーの方へも十分に協会活動を理解していただき、ご意見をいただくため、様々な活動を行ってまいりましたが、その一環として、協会の活動全体を俯瞰するレポートを作成することが必要ではないか、また協会は様々な情報を発信してまいりましたが、このたび協会においてアニュアルレポートを作成いたしました。

9. このアニュアルレポートは、7月24日に総会があり、その後に東京にて開催した記者会見でも配付いたしました。最近の協会の動きについてビジュアルにまとめておりますので、本日も配付いたしました。
10. アニュアルレポートの12ページをご覧ください。2016年から3年間の会長任期における目標として「公認会計士監査の信頼性向上」「多様な領域での会計インフラへの貢献」「人材育成・魅力向上」という3つの柱を設定し、様々な領域で社会に貢献するために会務を行ってまいりました。
11. 詳細は時間の関係から割愛させていただきますが、協会ウェブサイトからもダウンロード可能ですので、是非アニュアルレポートをご活用いただき、ご意見等をいただきたいと思います。

#### 四国会の最近の動き

12. 四国会における公認会計士のみが行うことができる法定監査について見ますと、企業については、必ずしも数は増えていませんが、平成11年の包括外部監査導入、最近では医療法人や社会福祉法人などの非営利法人に監査が導入されたことから、私が公認会計士になってから30年ほどになりますが、その間、監査の仕事は四国でも増え続けているように思います。
13. 一方で、アニュアルレポートの60ページにある会員数を見ますと、四国会の会員数は238名と、全国でも人数の少ない地域会です。四国出身の公認会計士はもっと多いのですが、東京大阪などの大都市で働く方が多く、その中から四国に帰ってくる人も少数ですがいらっしゃる、というのが現状です。
14. 四国に帰るか帰らないかは別として、有能な若い方に公認会計士という仕事を知っていただき、職業の選択肢の一つとして考えていただけるよう、高校や大学での職業説明を行っています。最近、香川県の高校で職業説明会を開催した際には、女子高校生からの公認会計士に対する関心の高さが印象的でした。
15. 徳島県の会員数は34名で、四国会の中でも小規模です。四国会として、他県の会員も協力したとはいえ、徳島県の会員のチーム力によって、1,000人を超える参加者数となる研究大会を本日もこのように開催することができました。
16. 実行委員のみならず、ご協力いただいた業者の方に感謝します。研究大会は本日からですので、無事に進行するよう、まだ不安な気持ちでおりますが、公認会計士がどんなことを考えているのか、大会中も取材していただければわかっていただけることもあるかと思っております。

#### 主な質疑応答

Q：国際会計基準でのれんの定期償却の議論が開始されたという報道について、協会としての受け止め方や対応をおうかがいしたい。

A：のれんをどう処理すべきかについては、会計的な議論としてずっと続けてきたものである。日本の会計基準ではのれんの償却が行われており、会計監査の専門家として実務を踏まえてのれんの償却、減損のメリット・デメリットを伝えていきたい。

世界的にものれん計上額が大きくなっている。投資家がのれんをどのようにとらえるか、どのような情報を重視しているのかでどちらの結論もありうるものと認識している。これから関係者でしっかりと議論していくことが必要と考えている。

以 上